

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	情報メディア演習	科目コード	F120103		
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学習成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.6	4.7	4.7	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では、さまざまな試みを行いました。まずは、普通教室で94名の演習授業を実施したこと。ひとりひとりの情報端末が異なった状況であったこと。クラウド上にあるビジネスチャットツールを使用したグループワークを実施したことなどです。そうした演習を通じて、皆さんは多くのことを学ばれたと思います。</p> <p>今回、皆さんが取り組んだ内容は、大学の初年次としては極めて高度でした。それを、よく頑張られたと思います。その成果は、最終発表会の各班の動画コンテンツに見ることができました。感動しながら、発表会を見ていました。</p> <p>これから卒業までの3年間、本授業で身につけられた資質・能力を活かして、充実した学生生活を送られることを期待しています。半年間、本当にお疲れ様でした。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学	科目コード	N221101		
担 当 者	t-tochikura@kobe-tokiwa.ac.jp				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学習成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.3	4.2	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>看護の国試範囲以外のところがかなり授業に盛り込まれていましたが、概ね皆さんからの評価は良好でした。授業でも触れましたが、感染症対策、医療・介護保険、食中毒、環境問題など公衆衛生学は私たちの生活に密接に関わっています。日頃から公衆衛生に関する情報に興味を持つようにしてください。授業前半は書画カメラの故障により皆さんにはご迷惑をおかけしました。お詫びします。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	小児看護学概論	科目コード	N230601		
担 当 者	庄司靖枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学習成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>小児看護学概論では、小児の母子支援実習 I アクシデントから授業の日程が何度か変更になり、皆さんにご迷惑をおかけしました。しかし、皆さんのご協力で8回の授業をすべて完了することができました。</p> <p>その状況の中でも、皆さんから送っていただいた授業後のアンケートはしっかり書けており、授業を重ねるごとに質問も多彩で内容にも深みが出ていました。私もいろいろな質問をいただき、大変興味深かったです。</p> <p>次年度の「対象論V」は小児看護学において対象となる、発達段階等を考えながら子どもの特徴の理解を深めていく授業になります。</p> <p>そこで、通学途中やアルバイトで子どもを見かけたら興味をもって観察してください。</p> <p>「対象論V」にとって大変有効な経験になるからです</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	学校保健	科目コード	N233801		
担 当 者	中西 利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学習成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は中西・光安の二人で担当しまし 1515 回授業内容のうちそれぞれの専門分野から、中西が保健教育と保健管理の対物管理・組織活動の分野を 7 回、光安が保健管理の対人管理（保健室管理）分野を 7 回担当し、初回の「オリエンテーション・学校保健とは」は中西が担当しました。</p> <p>テキストはあえて購入はせず、テキストの代わりとなる授業資料を各回配布しました。そのため資料枚数は多くなりましたが、みなさんファイリングし管理してくれていたようですね。</p> <p>中西は看護学科学生さんとの授業は初めてでしたが、みなさん真面目な受講態度で感心しました。初めはとてもおとなしい感じでしたが、グループワーク等で発表となると、物怖じせずしっかり発言してくれていたのが安心しました。</p> <p>「3.授業への出席状況」の評価が、学科平均より 0.46 ポイント低くなっていました。その他の項目については概ね平均と同等か少し高めでした。出席状況については、4～5 回の欠席者が数名いたことや、1 限目授業であったことや 1 月 10 日の授業は連休で成人式明けであったこともあり、欠席がある程度ありました。このような状況から出席状況の評価は低くなったと思われる。とはいえ、総じてみな時間までに登校し、受講準備をされていました。</p> <p>この授業は講義形態ではありますが、授業内容からグループワークや事例検討等を実施しました。授業評価にも、グループワークや実演、事例の提示、資料の逐一配布は良い点としても挙げられていました。よりリアルに学校保健について学べるよう、これからも適度に演習的な内容を導入していきたいと思います。</p> <p>保健師資格取得、養護教諭一種免許取得をめざす学生さん、取得めざしてどうぞがんばってください。</p> <p>授業評価の回答については、最終授業時に依頼しましたが、回答率が 67%程であったのは少し残念です。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	道徳教育と特別活動論	科目コード	N250601		
担 当 者	京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学習成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	3.9	3.9	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>教員自身が養護教諭の経験・知識に乏しいため、試行錯誤しながらの授業となりました。全員が養護教諭を第一志望としていなかったと思いますが、どこかで進む道を変える際に、この授業が少しでも役に立つことがあればと願っています。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2	
科 目 名	教育方法・技術論	科目コード	N250801	
担 当 者	大森雅人			
カテゴリー別授業評価調査結果				
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学習成果)	カテゴリー V (総合評価)
3.5	4.6	4.7	4.7	4.6
学生へのメッセージ				
<p>本授業は、養護教諭の教育実践における教育方法に焦点をあてて、教育方法の開発や改善等に行うことができる理論と方法を理解して、身につけて頂くことを目的としていました。そのために教育方法に関する理論的・実践的な学習を行いました。その際は、日本の教育方法に関して幼児教育段階から高等学校教育の段階までの特徴を俯瞰するとともに、教育方法開発の基礎となる理論や考え方、教育方法を改善するための方法に関して考察し、さらに、ICTを活用した教育方法や教材作成、教育的機能を持つ学習環境の活用等の実践的内容についても取り扱いました。</p> <p>養護教諭にとっての教育実践とは何かを理解して頂き、その実践をより効果的にするための教育方法を開発し改善することができる能力の育成を目指した授業でした。最終試験の解答を拝見すると、おおむね目標とした能力が育成できたのではないかと考えています。毎回提出されたレポートが、私の楽しみでもありました。</p> <p>授業の中でも話しましたが、養護教諭の教育実践は、さまざまな可能性を持っています。児童・生徒の生涯の健康をプロモートする要の存在として、ご活躍いただけることを心より期待致しております。</p> <p>教育方法に関して、何かお聞きになりたいことがありましたら、遠慮無く研究棟5階の研究室にお越し下さい。</p>				

学生へのメッセージ

学 科	看護学科		学 年	4	
科 目 名	医療・看護特論Ⅱ（医療専門職の動向）		科目コード	N137751	
担 当 者	尾崎雅子、中田康夫、岩切由紀、庄司靖枝、黒野利佐子 島内敦子、立垣祐子、原 希代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学習成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					

本科目は4年間で学んだ看護実践に必要な知識の修得状況の確認を目的に、4年生の後期に配置されています。国家試験を目前にして、課題に取り組む皆さんの姿を見てみると、「4年間経ったのだなあ」と感慨深く思うと同時に、何とか国家試験に合格してほしいという願いを抱きながら授業を進めました。

授業評価の結果は学科の平均とほぼ同様の結果でした。看護の7領域（基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅）と専門基礎の計8分野からオムニバス形式で授業を行いました。各分野の特徴もあり、授業方法はそれぞれ異なりましたが、この時期の授業では皆様自身が自らの学習状況を確認して、何をすればよいのか考えていただくことが重要だと思います。教員によって授業にムラがある、分かりにくい分野があったなどの意見がありました。今後もそのご意見を参考に効果的な授業になるよう更に検討していきたいと思います。

最後になりましたが、授業評価のご協力いただきありがとうございました。授業後の依頼となったこともあって34名と4割程度の方の回答でしたが、この結果を次年度以降に活かしていきたいと思います。

担当者一同、皆様の今後のご活躍を期待しております。

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	看護学研究	科目コード	N137221		
担 当 者	尾崎雅子、中田康夫、庄司靖枝、岩越美恵、十九百君子、黒野利佐子島内敦子、岩切由紀、藤原櫻、山口有美、魚崎須美、伊東愛、立垣祐子、西村充弘、江口実希、原希代、山本恵、尾崎優子、伊東美智子、阿児馨、野田部恵、中村由果理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学習成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.7	4.3	4.3	4.6	4.4	
学生へのメッセージ					

本科目は看護の対象に質の高い看護ケアを提供するために、また看護学の理論や実践を体系的に確立していくために、自らの立てた課題に向けて取り組んでいく研究的態度を身に付けることをねらいとしています。課題に対する“こたえ”は導き出せたでしょうか。

授業評価の結果は学科の平均とほぼ同様の結果でした。授業形態がゼミ形式で、教員と学生との距離が近く、意見交換が良くできたのではないですか。反面、長い時間をかけても思うように進まず困ってしまった人もあったかもしれません。「教員によって学生に求めるレベルが違いすぎるので統一してほしい」との意見もありました。多くの教員が関わるので、教員間の調整をしっかりとしていきたいと思います。看護学研究は臨床に出ても続けていくこととなります。今回は3年次に学んだ「看護研究方法」を手がかりに自分で進めてみる初めての研究でしたが、この経験を今後活かしてください。

最後になりましたが、授業評価のご協力いただきありがとうございました。国試前の時期であったこともあり18名の方の回答でした。少なくとも残念でしたが、貴重なご意見としてこの結果を次年度以降に活かしていきたいと思います。

担当者一同、皆様の今後のご活躍を期待しております。